

高知県感染症発生動向調査（月報）

2022年12月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第48週(11月28日～)から第52週(～1月1日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における12月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると26.99と11月の20.36と比べて増加した。同時期を過去10年間で比較すると新型コロナ流行が始まった2020年に次いで2番目に少なかった(コロナ前は例年60～120台)。南半球で寒冷期にそうであったように、日本でも3シーズンぶりのインフルエンザ流行が始まった。

1位は感染性胃腸炎で4週換算値が18.26で11月(1位11.63)と比べて増加した。2位はインフルエンザで3.36(同9位0.36)と増加した。3位はRSウイルス感染症で1.76(同2位2.95)と減少、4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.42(同4位1.55)と横ばいだった。5位は手足口病で1.30(同3位2.42)と減少、6位は突発性発疹で0.89(同5位1.03)と減少した。

〈全国の新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

オミクロン株(○株)が、2022年1月に第6波を引き起こした。その後は一貫して流行株は○株であるが、亜種がBA.1.1→BA.2→BA.5へと主流が置き換わりながら、感染力を強めている。7月には第7波が到来し感染者数が激増し、遅れて死者数が増加した。9月になってようやく減少に転じたものの、10月になって再び増加に転じ、この増加が第8波と呼ばれている。第8波は軽症化した感染力を増したBA.5によりこれまでで最多の1日死者数を記録する日々が続いている。さらにBQ.1が国内で流行し始め、さらに1月に米国で主流株となりそうなXBB.1.5が新たな脅威となっている。感染爆発を起こしていると思われる中国では、BF.7やBA.5.2など中国以外でも報告されている変異株ばかりであり、現時点では中国固有の変異株が広がっているわけではなさそうである。

2023年1月10日時点で、世界では、感染者数は6億6,310万人を、死者は670万人を超えた。日本の感染者数は30,647,859人、死者は60,411人となった(図1)。感染者数において、日本は世界で第6位となり韓国を追い抜いた。

経時的な年齢階層別患者数を図2Aに、1月11日の時点で累積感染者数が人口に占める割合を図2Bに示す(総務省統計局作成の2021年8月現在人口推計を用いて算出<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202108.pdf>)。感染者の割合は、10歳未満がトップで36.12%(100人当たり36.12人が感染済み)、次いで10代が34.11%、20代が30.38%、30代28.72%、40代22.63%と続いている。○株になって「年少者ほどかかりやすい感染症」に変容した。

COVID-19は高齢になるほど重症化しやすいが、第6波以降に致死率が低下した。δ株が流行した昨8月-9月までと、○株による第7波まで(9月20日のデータ)とで致死率を比較すると、80代以上 約14.0%→3.0%、70代 5.0%→0.9%、60代 約1.4%→0.2%と低くなっており、○株になって明らかに軽症化している。一方で、9月26日に報告方法が変更されて以降は、年代別重症化率と死亡率は公表されなくなった。

コロナワクチンについては、成人に対するブースター接種が進められ、3月から5-11歳の小児への接種が開始されたが、接種率は伸び悩んでいる。小児の感染者が激増しており、脳症など重篤となる幼児が報告されるようになったことを受けて、10月24日から6か月-4歳への接種(努力義務)が開始された。○株対応の新たなワクチンも接種が進められている。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	48週	49週	50週	51週	52週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		3.81	4.38	4.96	5.60	4.08	22.83
2	イ ン フ ル エ ン ザ		0.13	0.25	0.53	1.24	2.05	4.20
3	RS ウ イ ル ス 感 染 症		0.50	0.54	0.48	0.40	0.28	2.20
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.37	0.37	0.42	0.37	0.25	1.78
5	手 足 口 病		0.43	0.41	0.32	0.29	0.17	1.62
6	突 発 性 発 疹		0.25	0.23	0.24	0.22	0.17	1.11

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

日常的感染症は前月よりも減少して4週換算値が14.10となり、全国よりも少なかった。高知県ではインフルエンザの流行はまだ始まっておらず、12月としては過去10年で最も少なかった（コロナ前は40～100台）。

高知県における12月の上位6疾患は次のとおりである。1位は感染性胃腸炎で4週換算値6.94（同2位4.45）と増加したが全国よりも少なかった。2位は手足口病で3.14（同3位2.40）と増加し、全国よりも多かった。3位はRSウイルス感染症で1.24（同1位5.56）と減少し全国よりも少なかった。4位は突発性発疹で1.10（同4位1.15）と横ばいで全国よりも多かった。5位はA群溶血性レンサ球菌で1.07（同5位1.04）と横ばいで全国よりも少なかった。6位は水痘で0.60（同6位0.71）と減少したが全国よりも多かった。

<高知県のCOVID-19>

高知県におけるCOVID-19の月別患者数と死亡者数を図3に示す。2021年8月は東京五輪とともに急増し計1,382人まで増加した（8月25日に1日最多の111人/日）が、秋の小休止をはさんで、2022年1月から急増し第6波に突入（2月11日に311人/日）した。3月、4月と小幅に減少、5月は再び患者数増加に転じ、10日に366人/日と最多を更新し、月間最多の6,178人となった。6月は3,055人で半減した。第7波の7月は、1日最多を5回塗り替え、最多の12,898人/月を記録した。さらに、8月に入って拍車がかかり、1日最多は7回塗り替られて8月24日には2,027人/日と最多を記録し、41,285人/月となった。8月下旬から、ようやく減少に転じ、9月は15,416人/月、10月は4,225人/月と減少したが、第8波に突入し11月は9,201人/月、12月は24,151人/月と増加し、現在に至っている。

1月10日の時点では感染者は147,716人となり、死亡は先月から120人増えて458人となった。8月以降の死亡数の増加の原因は、患者絶対数の激増に加えて、高齢者の感染者割合が増加した（図4）ことによると推測される。集団発生（クラスター）は、GW後、6月下旬、8月、1月にピークがあり（図5）、8月と12月以降は高齢者施設と医療機関での発生が増加し、高齢感染者割合の増加をもたらした。

2022年2月以降に高知県で検出・解析されたウイルス変異株の内訳を図6に示す。1月上旬の大半はδ株であったが、1月中旬以降にο株（BA.1）が増加し、主たる流行株に置き換わった。3月中旬からο株の亜種であるBA.2が増加し、4月以降に主流株に置き換わった。亜種BA.5が6月22日に県内で初めて検出され、7月中旬以降の主流株に置き換わり、さらに新たな亜種BQ.1が12月15日に本県で初めて検出され、今後の主流株に置き換わるものと予想される。

県の対応ステージは、以下の通りで、2022年は対応ステージが目まぐるしく変更された。

2021年 8月19日～「非常事態（紫）」、10月28日～「感染観察（緑）」、
 2022年 1月7日～「注意（黄）」、同14日～「警戒（オレンジ）」、同20日～「特別警戒（赤）」、さらには、
 2月12日～3月6日「まん延防止等重点措置」、3月24日～「警戒（オレンジ）」7月29日～「特別警戒（赤）」、
 8月16日～「特別対策（紫）」・「BA.5対策強化宣言」、9月16日～「特別警戒（赤）」、同26日～「警戒（オレンジ）」、10月6日～「注意（黄）」、11月17日～「注意（黄）」（県の対応ステージの運用が見直された）、
 12月9日～「警戒強化（赤）」、
 2023年 1月11日～「対策強化（紫）」にステージが上げられた。

1月9日時点で、県下で3回目接種を受けた者（5歳以上）が69.1%、4回接種を受けた者が49.8%、5回接種を受けた者が24.1%である。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	48週	49週	50週	51週	52週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		1.78	1.52	1.15	2.19	2.04	8.68
2	手 足 口 病		1.00	1.00	0.96	0.44	0.52	3.92
3	RS ウィルス 感染症		0.63	0.22	0.33	0.33	0.04	1.55
4	突 発 性 発 疹		0.30	0.37	0.37	0.19	0.15	1.38
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.22	0.52	0.04	0.41	0.15	1.34
6	水 痘		0.19	0.30	0.15	0.07	0.04	0.75

図1,2023年1月10日時点でのCOVID-19(厚生労働省HPから)

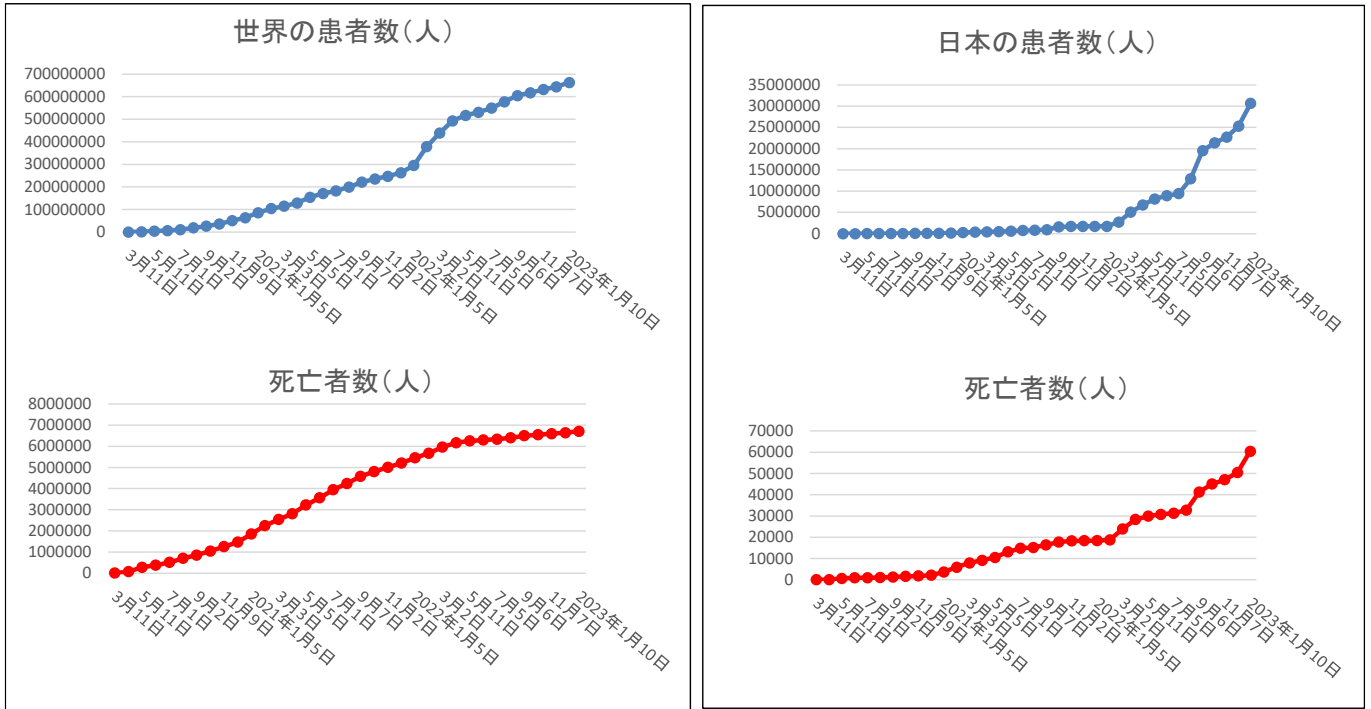


図2A.年齢別感染者数の推移(R5.1.11時点)

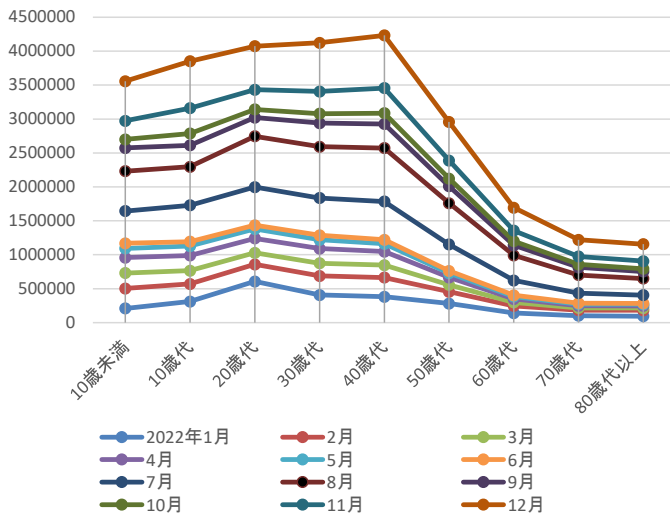


図2B.年代階層別感染者割合(R5.1.11時点)

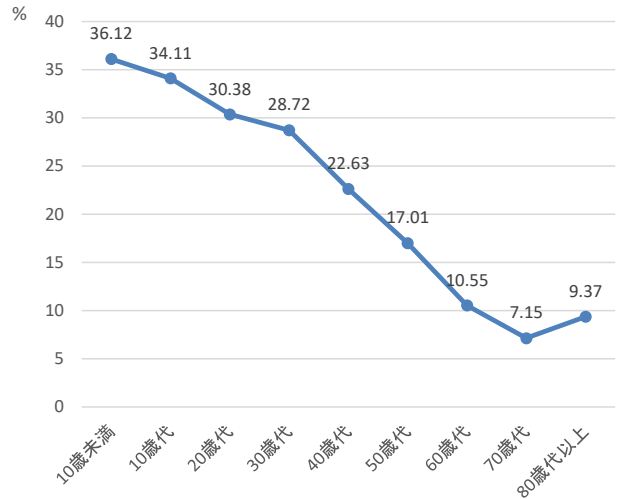


図3. 高知県のCOVID-19月別患者数(上)と死亡者数(下)
~2023年1月11日

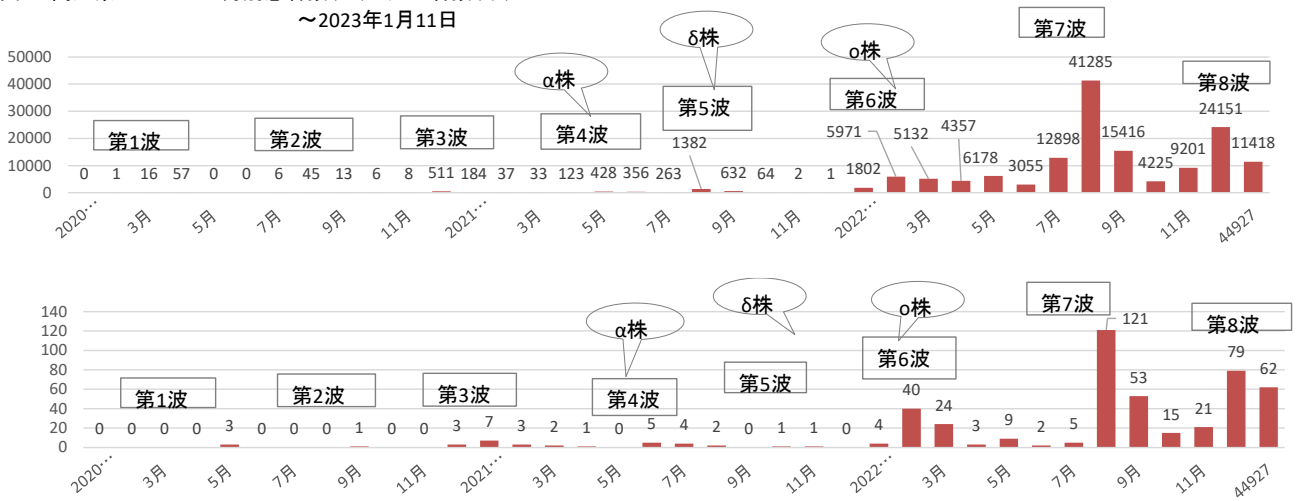


図4 高知県COVID-19患者の年齢別比率

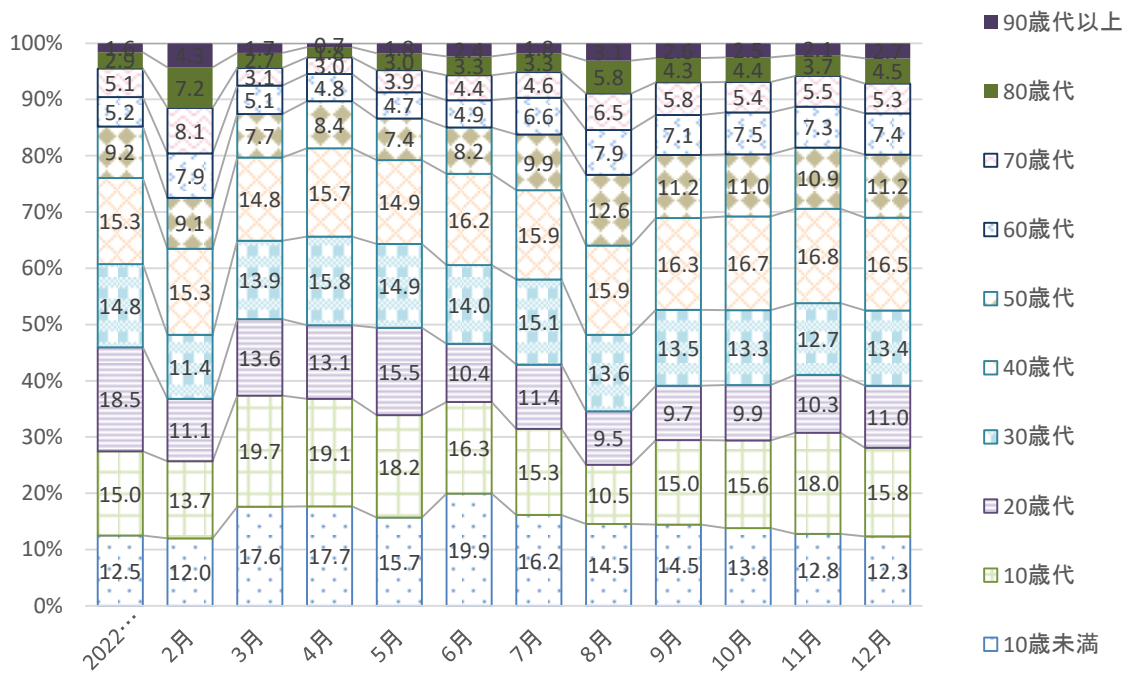


図5. 県下のCOVID-19集団発生件数

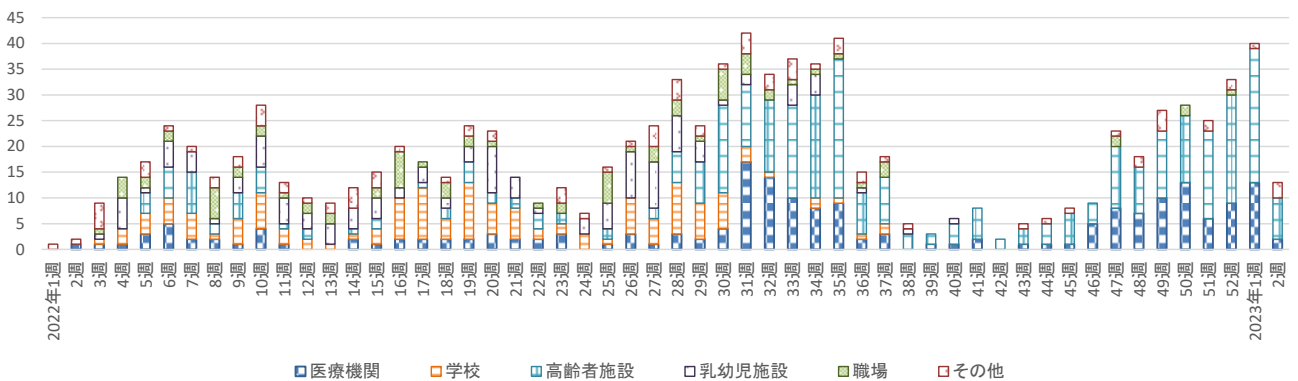


図.6 高知県で検出されたウイルス変異株の内訳

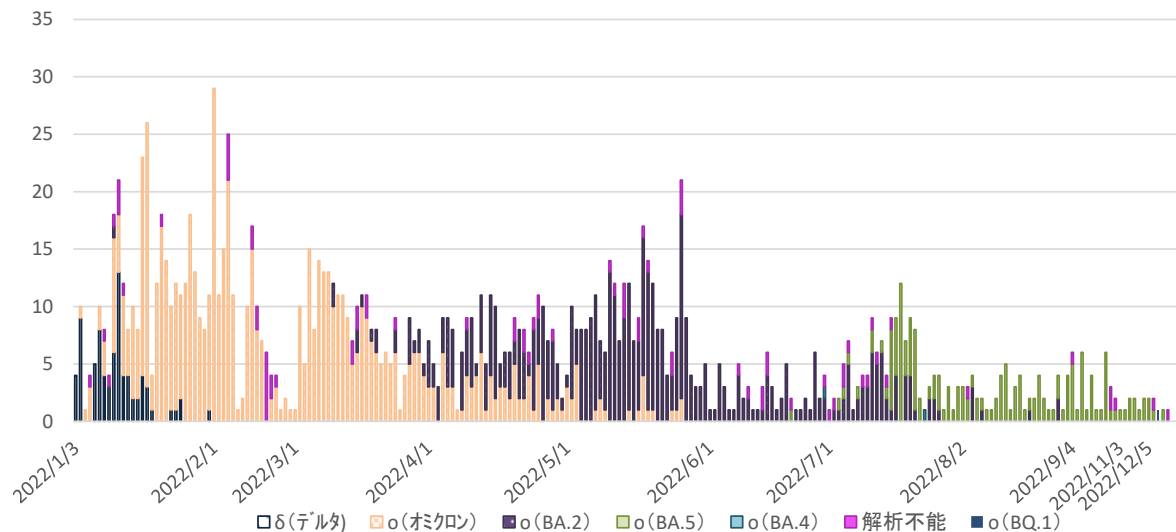


表3 コロナワクチン3回目・4回目及び5回目の接種率
(2023年1月9日時点)

	3回接種	4回接種	5回接種
全国(5歳以上)	69.9%	45.4%	19.9%
県全体(5歳以上)	69.1%	49.8%	24.1%

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。パンデミックによる衛環研の業務増大のため、感染症発生動向調査として行ってきた病原体検出の事業を1月から休止していたが、12月1日から再開した。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 25名 (11月 3名)。2020/21年に続いて2021/22シーズンも流行がなく、これは統計がある1998年以降で初めてだった。しかし12月は、安芸以外の県下全域から報告があり、2022/23シーズンは流行に突入しそうである。東京都ではAH3型ウイルスが検出されており、流行株と推測されている。高知市、須崎、幡多、中央西、中央東の順に多く報告された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 5名 (11月 9名)。過去10年で同時期としては最少の報告数だった。幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 36名 (11月 28名)。7月以降は過去10年間で最も報告数が少ない。高知市、須崎、安芸、幡多から表記の順に多く報告された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 234名 (11月 120名)。同時期としては2020年に次いで少なかった。県下全域から報告され、高知市、安芸、幡多、中央東で特に多かった。なお、2022年1月にはSapovirus genotype unknownが3件とAstrovirus NTが1件検出されていた。

5) 水痘

報告数 20名 (11月 19名)。少ない数字で推移している。幡多と高知市から報告された。

6) 手足口病

報告数 106名（11月 65名）。例年は5-6月に流行が始まるが、今年は遅れて8月に流行が始まり、だらだらと続いているが規模は大きくない。幡多、高知市、中央西、中央東から表記の順に多く報告された。

7) 伝染性紅斑

報告数 2名（11月 5名）。2020年9月以降は一桁の少ない報告数が続いている。中央東と高知市から報告された。

8) 突発性発疹

報告数 37名（11月 31名）。想定内の変動である。

9) ヘルパンギーナ

報告数 2名（11月 2名）。8月から流行が始まったが規模は小さく、過去10年間で最も少ない。中央西と高知市から報告があった。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 1名（11月 1名）。2020年10月から2022年1月まで同時期として過去10年で最少が続き、7月以降も最少の報告数が続いている。安芸から1名が報告された。

11) RSウイルス感染症

報告数 42名（11月 150名）。コロナ流行が始まった2020年11月から2021年3月までゼロが続いた。2021年は5月から流行が始まり、7月に頂値1,543名を記録し、夏の大流行となり、10月以降に終息した。2022年は、7月から流行が始まり昨年に比べると緩やかに増加している。須崎、幡多、中央東、高知市から表記の順に多く報告された。臨床症状が酷似するヒトメタニューモウイルスも8月末から流行しており、定点報告疾患ではないので評価は難しいが、RSウイルスに匹敵、あるいはそれを上回るような流行となった可能性がある。9月2日に採取された臨床検体からRespiratory syncytial virus Aが1件、12月3日に採取された臨床検体からRespiratory syncytial virus Bが1件検出された。

12) 流行性角結膜炎

報告数 1名（11月 2名）。2019年以降は一桁の報告数で推移している。

13) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（11月 1名）。年間10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（11月 1名）。従来は年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も3名と少なく、2022年は1名である

15) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 3名（11月 3名）。依然少なく、高知市から成人例が3名報告された。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 21名（11月 19名）。平年並みである。中央東＝幡多、高知市、安芸の順に多く報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（11月 1名）。年1-2名の報告が続いている。2022年は2名である。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和4年12月）

類型	病名	報告月												総計	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
2	結核	6	5	8	6	4	9	1	3	7	6	9	9	73	
3	腸管出血性大腸菌感染症						2						1	3	
4	E型肝炎				1									1	
	重症熱性血小板減少症候群			1						3	2	2		8	
	つつが虫病											3	2	5	
	日本紅斑熱					1	1	1	1	5	2	1		12	
	レジオネラ症	1					2		2	1	1	1		8	
5	アメーバ赤痢	2					1				1		1	5	
	ウイルス型肝炎					1							1	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症			1		1	1		1	1	1	3	3	12	
	急性脳炎												2	2	
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1									1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	1	1								1	4	
	後天性免疫不全症候群						1			1	2	1	1	6	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1											1	3
	侵襲性肺炎球菌感染症			2									1	3	6
	水痘(入院例に限る)			1		2									3
	梅毒	2	4	4	6	2	5	2	4	6	3	6	7	51	
	播種性クリプトコックス症						1		1			1	1	4	
	破傷風			1					2					3	
	百日咳					1				1	3	3	1	9	
総計		12	11	19	15	12	21	6	14	25	21	33	32	221	

高知県感染症情報 月報(62定点医療機関)

2022年

12月

定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ		2	16	1	3	3	25	3	3	
小児科	咽頭結膜熱		1	2			2	5	9	46	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		30		3	2	36	28	88	
	感染性胃腸炎	17	46	124	6	8	33	234	120	379	
	水痘			4			16	20	19	11	
	手足口病		12	22	4		68	106	65	13	
	伝染性紅斑		1	1				2	5	1	
	突発性発疹	2		19	4	5	7	37	31	45	
	ヘルパンギーナ			1	1			2	2	6	
	流行性耳下腺炎	1						1	1	1	
	RSウイルス感染症		13	12		5	12	42	150	2	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			1				1	2	1	
STD	性器クラミジア感染症			6			1	7	3	3	
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ								2	2	
	淋菌感染症			1				1	1		
基幹	細菌性髄膜炎								1	1	
	無菌性髄膜炎								1	1	
	マイコプラズマ肺炎			3				3	3	1	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)									3	
	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	1	3	14			3	21	19	25	
	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症								1		
	薬剤耐性緑膿菌 感染症										
計		22	78	256	16	24	147	543	466	632	
前月		18	70	217	21	44	96				
前年同月		19	111	358	36	25	83				
小児科定点数		2	7	11	2	2	5				

高知県感染症情報 月報(62定点医療機関)

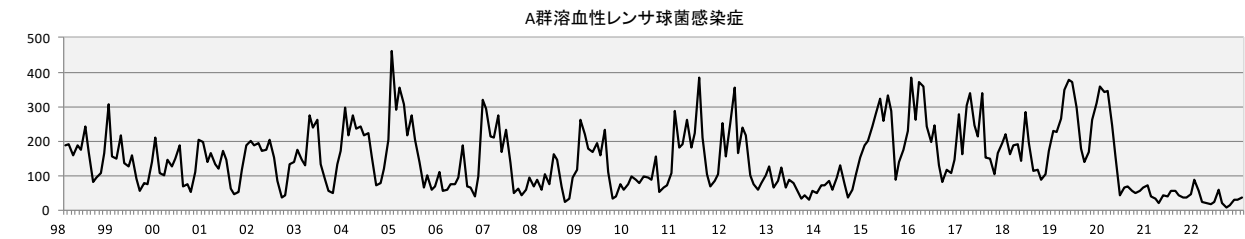
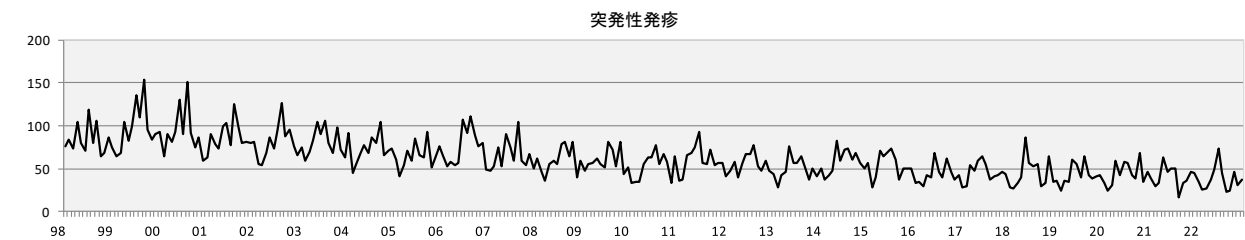
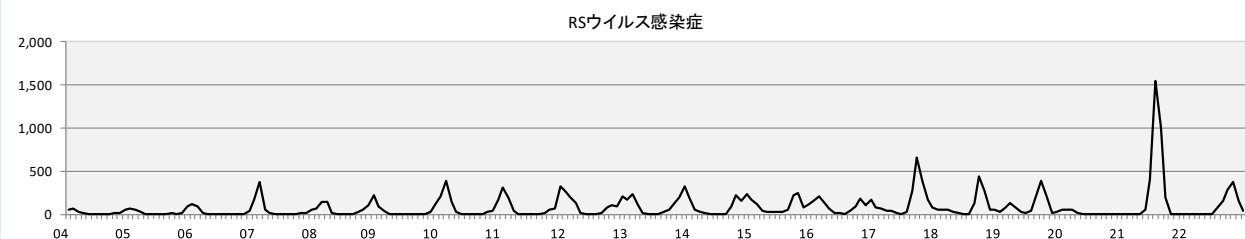
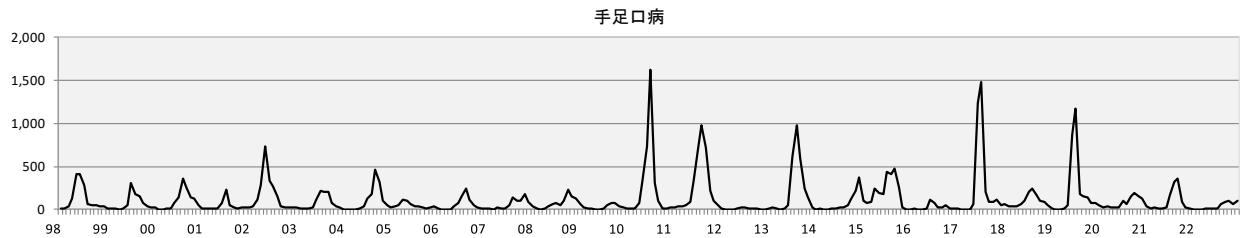
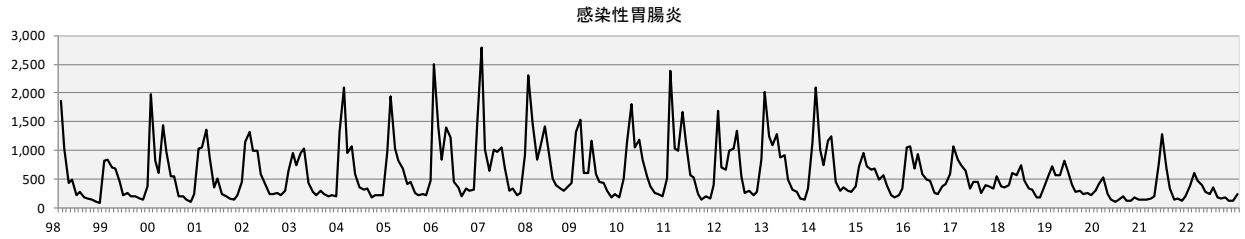
2022年

12月

定点当たりの人数

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ		0.18	1.14	0.25	0.75	0.38	0.56	0.06	0.06
小児科	咽頭結膜熱		0.14	0.22			0.40	0.18	0.33	1.65
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50		3.32		1.50	0.40	1.34	1.04	3.14
	感染性胃腸炎	8.50	6.58	13.78	3.00	4.00	6.60	8.68	4.45	13.54
	水痘			0.44			3.20	0.75	0.71	0.40
	手足口病		1.71	2.43	2.00			13.60	3.92	2.40
	伝染性紅斑		0.14	0.11				0.08	0.18	0.04
	突発性発疹	1.00		2.11	2.00	2.50	1.40	1.38	1.15	1.60
	ヘルパンギーナ			0.11	0.50			0.07	0.08	0.23
	流行性耳下腺炎	0.50						0.04	0.04	0.04
	RSウイルス感染症		1.86	1.32		2.50	2.40	1.55	5.56	0.07
	眼科	急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎				1.00				0.33	0.67	0.33
STD	性器クラミジア感染症			3.00			0.50	1.17	0.50	0.50
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ								0.33	0.33
	淋菌感染症			0.50				0.17	0.17	
基幹	細菌性髄膜炎								0.13	0.13
	無菌性髄膜炎								0.13	0.13
	マイコプラズマ肺炎			0.60				0.38	0.38	0.13
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)									0.39
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1.00	3.00	2.80			3.00	2.63	2.38	3.13
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症								0.13	
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
小児科定点分計		10.50	10.61	24.98	7.75	11.25	28.38	18.55	16.00	21.23
前月		9.00	9.06	21.38	10.50	22.00	18.60			
前年同月		9.50	15.15	36.81	11.85	12.25	15.40			

注目される疾患別月別推移



高知県感染症情報(月報)

2022年12月

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

令和4年12月はウイルス71件の搬入があり、そのうちウイルス22件の病原体を検出しました。検出ウイルスの内訳は、Adenovirus 1 1件、Astrovirus NT 1件、Cytomegalovirus 2件、Human herpes virus 6 3件、Human herpes virus 7 3件、Respiratory syncytial virus A 1件、Respiratory syncytial virus B 1件、Rhinovirus 7件、Sapovirus genogroup unknown 3件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1	男	-	40°C,下痢,嘔吐,	ぬぐい液	7/12	Adenovirus 1
2	5	男	-	発疹,	ぬぐい液	4/18	Human herpes virus 7
3	2	男	-	40°C,嘔吐,腹痛,下気道炎,肺炎,	鼻汁	9/2	Respiratory syncytial virus A
4	3	男	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,	ふん便	1/12	Astrovirus NT
5	2	女	感染性胃腸炎	-	ふん便	1/18	Sapovirus genogroup unknown
6	3	男	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,	ふん便	1/12	Sapovirus genogroup unknown
7	2	女	感染性胃腸炎	37°C,下痢,嘔吐,咳嗽,	ふん便	1/11	Sapovirus genogroup unknown
8	4	男	手足口病	発疹,	ぬぐい液	1/11	Human herpes virus 7
9	5か月	女	-	38°C,上気道炎,	ぬぐい液	5/31	Rhinovirus
10	1	男	-	38°C,咳嗽,発疹,	ぬぐい液	12/3	Respiratory syncytial virus B
11	4	男	-	38°C,咳嗽,	ぬぐい液	12/1	Rhinovirus
12	6	女	インフルエンザ	39°C,咳嗽,肺炎,	喀痰	11/28	Rhinovirus
13	2か月	男	-	-	尿	10/22	Cytomegalovirus
14	8	男	-	39°C,肝機能,	尿	10/14	Cytomegalovirus
15	2か月	男	-	-	ぬぐい液	10/22	Rhinovirus
16	2か月	男	-	-	ふん便	10/22	Rhinovirus
17	0か月	女	-	40°C,	ふん便	10/14	Rhinovirus
18	2	男	-	40°C,咳嗽,上気道炎,発疹,	ぬぐい液	1/17	Human herpes virus 6
19	1	男	-	40°C,咳嗽,発疹,	ぬぐい液	5/13	Human herpes virus 6
20	3	男	-	咳嗽,	ぬぐい液	4/18	Rhinovirus
21	2	女	-	40°C,発疹,	ぬぐい液	12/8	Human herpes virus 6
22	2	女	-	40°C,発疹,	ぬぐい液	12/8	Human herpes virus 7

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2022年		2022年総
		1月	12月	
インフルエンザ	Rhinovirus		1	1
	計		1	1
咽頭結膜熱	Adenovirus 2	1		1
	Human herpes virus 6			0
	計	1		1
感染性胃腸炎	Astrovirus NT		1	1
	Sapovirus genogroup unknown		3	3
	計		4	4
手足口病	Human herpes virus 7		1	1
	計		1	1
その他	Adenovirus 1		1	1
	Cytomegalovirus		2	2
	Human herpes virus 6		3	3
	Human herpes virus 7		2	2
	Respiratory syncytial virus A		1	1
	Respiratory syncytial virus B		1	1
	Rhinovirus		6	6
	計		16	16
総計		1	22	23

※2022年2月～11月までは感染症発生動向調査を中断しております。
 ※検体受付月で集計しております

類型	病名	報告年																				総計				
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		2019	2020	2021	2022
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	73	1948
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	73	1948
3	コレラ	1					1						1													3
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2												2					27
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1		3	210
	腸チフス		1						1										1				1			4
	パラチフス	2																								2
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	3	246
			3	5	3	2	4	2	1	4	1		3		1			3	1			2	1		1	34
4	A型肝炎																									6
	E型肝炎																									3
	オウム病			1		1															1					3
	Q熱	1	1	2				1																		5
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	9	6	4	61
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3	4	11	2	3	3	1	5	99
	デング熱																3	2	1				2			9
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	16	12	223
	日本脳炎	1	1	1					1		1	1	1													6
	マラリア								2						1											4
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	8	8	97
	レプトスピラ症											1		4	2	1					1					9
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	29	34	556
5	ア메ーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3		7	3	2	5	3	3		1	5	53	
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3	2	3		1			2	1	1	2	2	64	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	22	21	20	10	5	12	137
	急性弛緩性麻痺																					1	2			3
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1	1	2	24
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3			6		1	3			2		2	1	1	3			1	36
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1					1		1	1	3		1		3	5	6	2	2	5	4	37
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6		6	87
	ジアルジア症		1	2	1							1		1	1							1				8
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	7	3	1	1	3	28
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	14	22	11	9	6	113
	水痘(入院例に限る)																2	1	1	3			3	3	3	16
	髄膜炎菌性髄膜炎																									1
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	96	51	378
	播種性クリプトコックス症																			1	3	5			4	13
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	3	39
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1								1		1					5
百日咳																					173	172	35	3	9	392
風しん											1	1			4	9	1				3				19	
麻疹											5														5	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	127	111	1458	
新型	新型インフルエンザ																									34
	新型コロナウイルス感染症																									4168
	計																									4202
動物	鳥インフルエンザ													1												1
	計													1												1
総計		61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	877	3726	221	8411